

携帯テレビ用超低消費電力「地上デジタル放送受信チューナー+OFDM復調回路」LSIの研究開発(富士通株式会社)平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所見	再評価	再所見
14-01	A	<p>携帯テレビ用超低消費電力(地上デジタル放送受信チューナー+OFDM復調回路)LSI試作を平成17年度3月までに完成される中間目標に向けて、平成15年度は、各回路部品の試作を実施中である。周波数発生回路、初段アンプ、IF部、低消費電力デジタルOFDM回路などの設計が完了し、全体の基本アーキテクチャに関する検討も行われており、ほぼ順調に進捗していると思われる。ただし、今後このテーマに関する競争が激化することは必須である。よって、本研究開発の優位性を早期にアピールできるよう、研究開発のスピードアップが必要であると思われる。研究目標に関しては、他の技術に対する優位性を明確にするために、CMOSですべて実現できること、3セグメント方式で消費電力を目標の50mW以下にできることを、一日も早く実証する必要があると思われる。</p> <p>事業化に関しては、経営計画上も会社としての事業化を明確にしており、事業化のプロセスも明確であり、既に事業化に向けた活動に着手されている。これは、研究開発成果の商品展開が急がれることから評価できる。商品の優位性により収益の確実性は高まるが、部品ビジネスであるため、当該部品を適用する製品の販売数への依存性が大きく、多数の商品を販売する必要がある。なお、部品の適用範囲をより広げていく方策の検討が望まれる。事業化の観点では全体的に、明確な事業化計画と激しい競争も予測される中での技術優位性の保持の面を評価する。</p>		